



アスンシオン通信

シーズン2

日付: 2025 年 7月15日 no.31

発行者: 田邊紘起

Hola a todos ! Que tal? Como están?

1学期の終わりまであと一息ですね。とても暑い学期末だったようですが、この4ヶ月も多くの学びがあったのではないかと思います。7月10日のオンライン交流会では、先生の話をしっかり聞いてくれてありがとうございました。「これは日本にあるけどパラグアイにもあるのかな?」とか

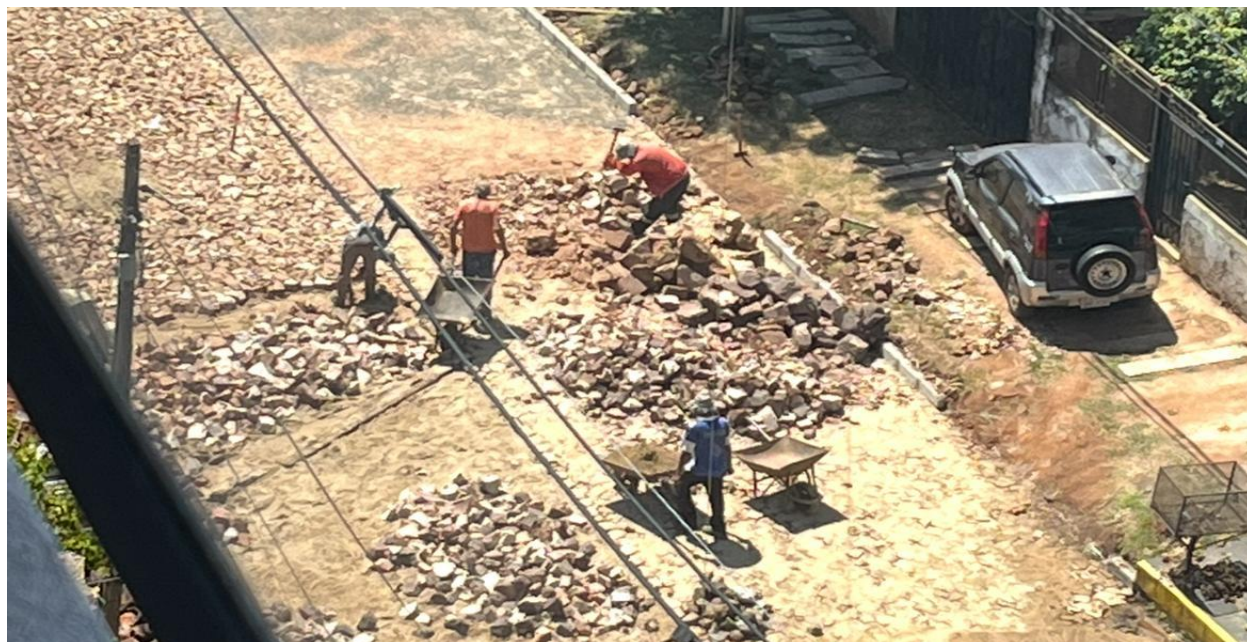
「日本ではこんなやり方だけど、パラグアイの人はどうするんだろう？」など、パラグアイやアスンシオンのことで疑問に思ったことや聞いてみたいことがあったら大募集します。質問には全力で答えますので、どんどん質問を考え、こちらに送ってください。感想も待っています。

もうすぐ夏休みですね。せっかくの長い休みなので、じっくりいろいろなことに挑戦してみてください。それまであとひと踏ん張り、がんばりましょう。さて今回の通信では、我が家の近くで道路を作る工事が行われていたので、その様子についてお伝えします。

静かに始まり、いつの間にか終わった工事

私たち家族が住んでいるマンション前の通りの左側は今まで空き地でしたが、ある日人がたくさん集まってきて、木を切り倒したり、石を運んだりし始めました。どうやら道路を作るみたいです。木を切って地面を平らにした後、ハンマーで石をくだいてパズルのように地面に並べていました。すべてが手作業で、とても時間がかかります。その間、日本なら当たり前にある「工事中」を示す看板などはありません。工事が終わってなくても、何となく「通れそうだ。」と感じたドライバーは、工事中の道路に平気で入ってきます。工事が終わったので見に行ったら、どうにか車が通り抜けられるようにしてありました。ただ、道路上にマンホールの穴が開きっぱなしで危険だなと思いました。数日後、長い棒をさして穴が開いていることが分かるようにしてありましたが、穴はそのままです。新しい

道路は石畳でゴツゴツしていました。これで工事は終了らしく、日本の道路のようにアスファルトを敷いたり、白線を引いたりはしません。



ハンマーで石を砕く人、砕いた石を並べて敷き詰める人、それぞれ役割分担して道路を作る。

こつこつと地道な作業を続けるので、完成するまで時間がかかります。=自宅より撮影



工事が終わったので行ってみると、大きな穴があいたままでした。=自宅付近の道路

上の写真を撮ってしばらくすると、穴はいつの間にか埋められていました。どこに穴があったかも分からず、マンホールではなかったようです。出来上がった道路を車で走っていましたが、デコボコしていて大変でした。でも、隣の通りが信号待ちで渋滞するので、抜け道にはいいかなと思いました。こちらでは工事中の看板や交通整理をする人がいないので、多くの人が工事中の道路でも当たり前のように通行しています。日本なら「工事はいつまで?」「看板立てて分かるようにしてよ。」「工事のせいで事故があったらどうするの…」とか、いろいろ苦情が出そうですが、「まあ、そんなに気にしなくてもいいんじゃないの。」的な態度のパラグアイの人たちは、本当に寛容な人たちだなと思いました。



工事中を知らせる看板がないので、進入したあと通り抜けられずに引き返す車が多い。

ちなみに、もっと広い道路(たくさんの車が通る市の中心部の道路)では、警察の人が交通整理をして事故が起こらないようにしています。それに、大型の重機が活躍して工事を進めています。

タイトル写真について

近所であった、パラグアイのとても大きなお祭り「サンファン」の時の様子です。麦わら帽子がたくさんつるされていてきれいでした。イベントもたいへん盛り上がっていました。

スペイン語・グアラニー語ひとこと講座

¿De dónde eres? (デ ドンデ エレス?): どこの出身ですか?

パラグアイの人は、日本人・韓国人・中国人のようなアジア系の人の顔を見ても、どこの国出身かわからないと言います。「De Japón (デ ハポン): 日本出身です。」という、「あ〜、日本ね。日本のこと知ってるよ。」と笑顔で答えてくれます。地球の反対側に住んでいる人たちの中にも、日本のことを知っている人がたくさんいてうれしいですね。

次回について

今回はパラグアイの伝統的なものについてお伝えします。

Chao chao!nos vemos!